

## 平成 30 年度 第 4 回宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 平成 31 年 3 月 7 日 (木) 18:30~20:00

<場 所> 宇治市役所 8 階 大会議室

<出席者> (委員:17 人出席/25 人中)

迫副会長、大西委員、小林委員、篠原委員、俣野委員、松村委員、稲吉委員、上西委員、岸委員、長澤委員、弓指委員、杉本委員、松井(明)委員、浅妻委員、寺田委員、松井(敏)委員、宮崎委員

(事務局:20 人)

教育部 伊賀教育部長、山本教育部副部長、市橋教育支援センター長、栗田教育総務課長、吉田学校教育課長、金久一貫教育課長

福祉こども部 星川福祉こども部長兼保健推進課長、澤田福祉こども部副部長兼地域福祉課長、富治林生活支援課長、須原障害福祉課長、北尾こども福祉課長、上道保育支援課長、雲丹亀こども福祉課副課長、吉田保育支援課副課長、次郎内こども福祉課子育て企画係長、野口保育支援課計画係長、平山保育支援課保育支援係長、水野こども福祉課子育て企画係主任、西村こども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1 人

### <会議内容>

#### 1 開会

【副会長】定刻になりましたので、会議を開会します。本日会長が欠席となりましたので、副会長が会長の代行をさせていただきます。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

#### 2 新任委員紹介

- ・事務局より、資料 1 「宇治市子ども・子育て会議委員名簿」に基づき、新任委員を紹介
- ・事務局より、会議の成立確認報告及び配布資料の確認

#### 3 議事

##### (1) 宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査の実施について

- ・事務局より、資料 2 「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査等の実施について」及び資料 3 「調査票案に対するご意見と対応について」に基づき、説明が行われた。

【副会長】 前回の会議でご意見や修正点を出していただき、検討の上、作成をしました。これから調査票を配布し、回収後は調査結果に基づいて計画などに反映していきますので、ご意見をいただければと思います。

【委員】 調査票の回収期限を3月29日としていますが、回収率の目標をもっていますか。また、回答いただいていない方への督促などは考えていますでしょうか。

【事務局】 前回、前々回の調査では、回収率が50%くらいで、行政のアンケートとしては高い回収率でした。今回、子どもの貧困に関する設問を入れたため、設問数が増えたこともありますが、50%は超えたいと思っています。有効回答率は、40%くらいでも十分な数値であると聞いています。回収期限は3月29日としており、その時点で全員にお礼状兼督促状を発送し、まだ回答をいただいていない方の最終期限を4月10日とします。期限を1日でも過ぎると受け付けないということではないですが、集計作業に支障がない範囲で1枚でも多く取り込んでいきたいと思っています。

【副会長】 回収率をあげるためのいい案はありますか。ラインなど子育て情報を発信しているところで、アンケートが来ていたら、いつまでに出してくださいというような情報を出すのはいかがでしょうか。

【事務局】 市政だよりにおいて、ニーズ調査に関する広報は行っていますが、他の記事も多くありなかなか気付いていただけてないところがありますので、ラインで発信するなどいろんな媒体を使ってぜひやらせていただきたいと思っています。

【委員】 幼稚園や小学校で連絡メールを配信していますので、それを使えば各保護者に調査票の協力について発信できるのではないのでしょうか。

【副会長】 学校のメール配信システムを使って調査についての広報をお願いすることは可能でしょうか。

【事務局】 メール配信は、各学校で取り組んでいますので、教育委員会から一斉にということは難しいです。

【委員】 行政担当で SNS を盛んにやっている方がいます。宇治市の中でもやっている人がいれば、そういうところも活用すればいいのではないかと思います。

【副会長】 いろんなところで、啓発をして、アンケートが来た人に頑張って答えてもらうことをお願いして、回収率を上げていければと思います。

【委員】 障害のある就学前のお子さんは、療育施設や保育園に行っていない子どももいると思います。療育施設に入っていない方や、障害のある保護者はアンケートを返しにくいと思います。そういうところにも声かけができれば回収率が上がってくると思います。

【委員】 幼児教育の無償化で、不確定な要素がありつつも、10月から始まります。このタイミングでニーズ調査は宇治市として非常に意義があると思います。

【事務局】 回収率を上げるということについては、皆様が所属している団体の方に、アンケートが届いていたら、回答していただく旨をお声がけをしていただきたいと思います。無償化についてですが、大きな制度変更だと思います。無償化についての情報はありますが、体感としては、ない時期に調査を行いますので、回答結果にどのくらい影響があるのか見定めていかなければいけないと思います。また、計画の中間見直しの時にも、無償化に伴う影響はみていく必要があります。結果を見て、どのように施策に盛り込んでいくかが大切だと思いますので、ここからだと思っています。

【副会長】 無償化の話は、お母さんの中で話に上がっていますか。

【委員】 幼稚園の親などでは、話に上がっています。

【副会長】 障害のある子どもの親で、回答が難しい方がおり、返せない方もいると思いますので、そのあたりを拾い上げることができないことがあるということは心に留めておいてください。

## (2) 特定教育・保育施設及び地域型保育事業の利用定員について

・事務局より、資料4「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について」に基づき、説明が行われた。

【副会長】 いまの説明を受けて、ご意見がありましたら、お願いします。事務局より、実際、保育所の申し込みと待機児童の関係から見えてきている部分がありましたら、お願いします。

【事務局】 保育所の申し込みについては、30年度は4035人でした。31年度は4113人で、78人増えています。入所予定児童数については、30年度は3891人でしたが、31年度は3953人で62人の増加となっています。2月13日の数値ですが、入所申し込みされた方で、入れなかった人、保留通知をお送りさせていただいた方は133人となっています。保留になっている方は、小規模保育事業や家庭的保育事業への入所の調整を行うということと、空いている保育所に申し込みをしないかという調整を行い、4月に向けて、多くの方に入っただけよう努力をしています。

## (3) その他

【副会長】 本日の議題は以上ですが、皆様は様々な形で子育ての活動に関わっておりますので、日頃感じているところがあれば、ご意見をいただければと思います。

【委員】 子どもが少ないということはあると思いますが、環境が厳しい世の中になってきていますし、自分

のことで精一杯というように感じます。よその子どもまで考えられない現状があると思います。昔を思うと、今は厳しい状況だと思います。こういう状況を変えていくのは、国の仕事だと思っています。

【委員】日頃から児童虐待に関わっていますが、その背景は、調査にもありますが、貧困や余裕のなさや孤立、全ての要因が重なって虐待が増えていることは全国的な問題だと思います。国でも児童福祉法の改正の話が出てきています。宇治市では児童相談所もありますので、京都府内の中でもまだ対応ができていますので、機関、学校、幼稚園、保育所も含めて、うまく連携できる、みんなで見守ることができていくことが大切だと思います。

【委員】学童保育の保護者会連合会では、保護者が集まる時間がないということが問題になっており、役が回ってくると、やりたくないという意見があり、脱会される方も増えてきています。自分の子どもに関わることですが、なぜか人任せ、自分でやりたくないという感じがします。ラインなど便利なものはありますが、それに頼りすぎて、人付き合いが希薄になっていることを感じます。連合会のアンケートを今年はスマートフォンで行い、集計もパソコンでできるので、作業は楽になりましたが、今までは、声を掛け合って話し合いをして作業をしていましたので、顔を合わせる機会が減って横のつながりが薄くなってきたと思います。簡単に全てのことが終わってしまいます。人間同士の付き合いの希薄さが浮き彫りになってきています。便利なことも大事ですが、昔ながらの声の掛け合いがあればいいと思います。

【委員】遊ぶ施設が少ないと思います。遊びに行く、体を使って走り回ることのできる場所が少ないので広い場所があればいいと思います。

【委員】引っ越しをしてきた時に、周りに知っている人がいないとどういうところで情報をもらったらいいかかわからないので、情報を入手しやすい環境になると嬉しいです。

【副会長】宇治子育て情報誌からは情報は入手できないでしょうか。

【委員】最初に情報誌をいただき、見ましたが、幼稚園に行くまでの子どもメインのものとなっており、4歳から5歳の小学校にあがるまでの情報が得にくいと思いました。

【委員】保育園のお母さんからの声として、保育園の閉園時間が早いという声があります。変則な仕事をしている親や遠くへ仕事に行っている親もいるので、お迎えが間に合わないことが多いということです。もう少し、長く預かってもらえると嬉しいと思います。

【委員】障害のある子ども達や親を含めて、まだサービスが足りない部分があります。障害のある子どもは預けられなかったら、早い時間にお迎えに行かなければならないので障害のある子どもたちが入れる場所を増やしてほしいと思っています。また、障害のある子どもたちを集めて療育を行うだけでは刺激が少ないので、健常者と一緒に学んでいくことが必要だと思います。以前に比べると子育てをしやすくなっていると思います。

【委員】中学校の保護者から意見をいただきましたが、小学生にスマホを持たせるということが、議論の的となっています。防犯上、災害があった時に、スマホがあれば、親や身内に発信できるなど便利である一方で、危険な部分もあるので、対応をどうしていくのか。個人としてもどうかと思います。ラインのいじめもありますので SNS の使い方も慎重に行わないといけないと思います。保護者からそういう声がありました。子どもたちは、この言葉を言ったことで、傷つくということがわかりにくい部分があります。その辺を気をつけていただきたいと思います。市の教育委員会でも、発信するに当たっても気をつけて頂ければと思います。

【委員】子育て支援活動をしています。支援活動の場でのこの数年の変化が面白く、以前は上のお子さんは3歳児のお兄ちゃん、下が0歳ということがありましたが、最近は低年齢化して、0歳児の子どもが5人という時もあります。布団敷いて、寝返りをうてない子どもが5人いるという時もありました。今では3歳児は保育園などに行き、ほとんどいません。0から2歳の子どもを集めて支援をしています。これまで子育て支援は、子どもにどうしたら楽しんでもらえるかの発想でしたが、今は違います。親がいかにしたら、友達をつくっていい環境にしていくかに変わりつつあります。親は、小さい子どもをどのように遊ばせればいいのかという方向に変わっています。

【委員】学校福祉の方でも関わっておりますので、学校ではふれあい事業など小学校を介して、年1回、父親、母親と子どもを中心にゲームをしたり、模擬店を出すようなことを行っています。最近、小さな子どもを見るのがなくなりました。親は仕事のため、生まれて何ヶ月で保育園に行っています。小学校になっても、外で遊んでいません。新興住宅があつて広い公園がありますが、遊んでいる子どもがいません。

【委員】千葉県虐待死の事件を受けて、国から虐待関係の調査などの通知が来ています。保健所は、いろんな機関へつなぐ仕事もしていますが、これは虐待なのか、躰なのかかわからないことがあります。ご相談いただければと思います。躰についても、国では家庭内でも、暴力は絶対にいけないというようになっているので、家庭から、暴力がなくなれば、社会全体で悲惨な事件がなくなると思います。

【委員】昔は女性は24歳くらいが結婚の平均年齢で、30歳を過ぎて初産だと、母子手帳に赤いハンコを押されました。今は31歳が初産の平均となりびっくりしています。おじいちゃん、おばあちゃんが私より先輩という人が多いことを実感しています。孫たちからいろんなことを学ばせてもらっています。

【委員】一番感じるのは、人間関係が希薄化しています。親は子どもに外に遊びなさいという声かけができず、危ないから家にいなさいということになっています。公園で遊んで欲しい、子どもの関係づくりをして欲しい中で、息詰まる場所があります。一番大事なのはつながることです。親同士がどのようにつながるのか、ちょっと一言隣の方に挨拶をするなどの繰り返してつながり、その挨拶が子どもにもつながっていきます。そして、子どもを地域ぐ

るみで見守るという姿勢、子どもが安心して暮らせるまちづくりが大事だと思います。その中に、障害のある子どもが地域で育つという目に関わりを持つことが大事です。声掛けをすることによって、助け合い、それがネットワークづくりになるのではと思います。

【委員】それぞれの価値観や求めているものが少しずつ変わってきており、町内会も若い方も入ってくるが、お世話ができないので会をやめる人も出てきています。新しく入られる方が、働いている人が多く、町内会に入らない人や、入っていてもすぐに脱会されてしまいます。みんなが集まる機会、良さ、楽しむことが時代的にも、価値観が見出されなくなって、悲しいと感じています。小児科で子どもを多く見ます。疾病を持った子供や、様々な家庭があります。話をしてくれるが、親や若い人が集まって、情報交換したり、町内で相談されたりする機会がなく、そのことが望まれておらず、自分たちの生活を守っていくのに必死なのだと思うと、寂しさを感じます。そういうことに関係したことも、この会議の中でも考えて、親に少しずつ芽生えてきてくれれば嬉しく思います。

【委員】2019年度から宇治市は小学校に人型ロボットを導入されたというニュースがありました。プログラミングということで導入されたとのことですので、思考力、決断力などを育てるために、活用されると聞いています。学校の現場に始めて導入されるということで、重要なことかと思います。ソサエティ5.0があるかと思いますが、AIの発達に伴って、コンピューターに管理されるのではなく、自分たちがコントロールして使っていく時代のときに、宇治市が導入されたことと結びついて、これからの子どもの未来に大きな希望や夢が溢れているのではと思います。興味深く見守っていきたいと思います。

【委員】待機児童と言っていますが、数年たった後を考えると、本当に恐ろしいです。それにめげずに、現状のニーズに答えていきながら、理念を大切にしていきながらやっていきたいと思っています。

【副会長】ありがとうございました。皆様の声を聞いて良かったと思います。

- ・事務局より、今年度最終の開催に伴うあいさつを行うとともに、次回の会議の開催時期について、年度当初に委員就任の推薦をいただいている団体に事務局から連絡を行うことについての説明が行われた。

【副会長】以上をもって平成30年度第4回宇治市子ども・子育て会議を閉会します。

#### 4 閉会